

平成27年度 顕彰会 総会を開催します。

ぜひご参加ください。



昨年の総会の様子

日 時 平成27年5月23日(土)
午後1時30分 受付開始
午後2時 開式

会 場 セルディ ホール

内 容 前年度事業報告・決算報告
今年度事業計画・予算審議

記念講演 斎藤幸一氏(温故学会理事長)

演 題 「保己一少年、15歳の旅立ち～
温故学会の塙保己一像と新塙保己一像～」

※ 当日、会場では、塙先生が総検校を拝命するために上京した時の旅の記録『上京日々記』の概要版を配布する予定です(希望される方には本編も配布予定)。ぜひお越しください。

平成二十六年 度 顕 彰 会 事 業 報 告



嵐義人教授による記念講演

二十六年 度 総 会

五月三十一日、児玉文化会館セルディを会場に平成二十六年 度 顕 彰 会 総 会 を 開 催 しました。当日は、会の運営についての審議のほか、銅像建立計画案の審議が行われ、承認されました。

また、顕彰会への寄付に対する感謝状の贈呈のほか、國學院大學教授の嵐義人氏による記念講演も行われました。講師の嵐氏は「塙先生の地元のみなさんの前で講演は感慨ひとしおです」と感激されていました。

顕 彰 祭

塙先生の命日である九月十二日にセルディで開催された遺徳顕彰祭では参加者全員が塙先生の遺影に菊の花を捧げ先生の遺徳を偲びました。



塙 保 己 一 賞

十二月二十日、セルディで行われた埼玉県と本庄市共催による塙保己一賞への協力を行いました。当日は、障害がありながら社会的に顕著な活動をしている人や応援している人・団体など4名が表彰されました。

表彰式後には、盲目のヴァイオリニスト和波たかよしさんと土屋美寧子さんのピアノのデュオ演奏も行われ、来場者は、その優雅な音色に聴き入っていました。



市長から副賞を授与

また、本庄市自治会連合会で行う塙先生勉強会の総仕上げ年度である今年度も講師派遣を行い、二十三年度からの累計で約二千二百人の市民に塙先生の業績を説明しました。

広報紙に見る顕彰活動の足跡

文：顕彰会事業委員 根岸 久

平成十八年一月十日、旧本庄市と旧児玉町が合併して新「本庄市」が誕生していますが、昭和三十年三月にも児玉町と金屋村、本泉村、秋平村の一町三ヶ村の合併が行われ、新「児玉町」が誕生し、昭和三十二年六月一日に「広報こだま」の第一号が発行されました。昭和三十年代の広報こだまに見る、総検校塙保己一先生遺徳顕彰活動の足跡をたどってみます。

広報こだま第一号には、新町初代の筑紫権四郎町長も所信表明で、「一万六千余人の一人一人が塙保己一先生生誕のこの児玉町に住むことに無限の誇りがもてる明るい楽しい街の建設こそ、私の念願でありアイデアです。」と語っています。この年は塙保己一先生没後の一三五周年の節目の年でもありました。同号の塙顕彰趣意の記事には「世界の人々から盲聖と称えられる塙保己一先生の御偉徳をあきらかにすべき時は正に今であると念ずるのであります。(中略) その堅忍不拔の志の前に唯々深い敬意を感じ発奮奮起しないわけにはいかないのであります。(中略) ここに先生の遺徳顕彰会(※現在の顕彰会とは別組織。)を設立し、塙精神の発揚をはかるため、遺品を収集して保存の措置を講ずると共に、その教訓を現代に生かして青少年の教育の向上を

はかり、あわせて全国百万余の身体障害者に対しても援護の手をさしのべ、もつて国家、福祉日本の建設に寄与しようとするものであります。」とあります。

また、十二月一日発行の第三号には、村田勇氏(元児玉町議会議長)の後日談として、「昭和三十一年五月五日、大沢雄一埼玉県知事をはじめ県下名士多数の列席を得て、埼玉県議事堂に於いて、総検校塙保己一先生遺徳顕彰会発会式を盛大に挙行して以来ここに一年有半(後略)、(昭和三十三年)九月十七日、関根久蔵参議院議員の協力を得て、平凡社創立者の下中彌三郎氏に会長決定(折渉三回に及ぶ)」とあります。なお、顕彰会は昭和三十三年六月四日附で文部省より財団法人として認可されています。

また、八月一日発行の祝合併特集号には、天然色スライド「塙保己一

物語」制作はじまるの記事があり、「財団法人塙顕彰会では、青少年の指導強化と、法人顕彰会の募金の目的を以て『塙保己一物語』のスライドを作成することになり、広く全国一般に公開することになりました。」とあり、完成した塙保己一物語は、九月から町内小中十一校で巡回上映されています。また、「保己一海を渡る」の記事が見られ、「米国ニューヨークに於いて開催される、第六回国際絹大会に出席のため、参議院議員関根久蔵氏は、十月十五日羽田空港を出発、各国協力者に土産として、この程児玉町で制作した『塙保己一物語』スライド及び英語版テープを持参した。」とありました。さらに、昭和三十三年三月十日発行の第四号には、昭和三十三年児玉十大ニュースに「ドルを稼いだ塙保己一顕彰会」の記事があり、「米国カルホルニア大学より塙保己一顕彰会の趣旨に感動し、『塙保己一物語』スライド二十本送れ代金はすぐ送る(二百ドル)との発注書が来た。」とありました。また、別の号では『塙保己一物語』のスライドが(国内の)コンクールに於いて最優秀賞を獲得。スライド撮影の協力者は延べ人数一千八百七十三人という興味深い記事もありました。なお、昭和三十一年に制作された「塙保己一物語」のスライドは、平成八年九月十四日、塙保己一没後の一七五年の記念事業で、四十年ぶりに上映されています。

物語」制作はじまるの記事があり、「財団法人塙顕彰会では、青少年の指導強化と、法人顕彰会の募金の目的を以て『塙保己一物語』のスライドを作成することになり、広く全国一般に公開することになりました。」とあり、完成した塙保己一物語は、九月から町内小中十一校で巡回上映されています。また、「保己一海を渡る」の記事が見られ、「米国ニューヨークに於いて開催される、第六回国際絹大会に出席のため、参議院議員関根久蔵氏は、十月十五日羽田空港を出発、各国協力者に土産として、この程児玉町で制作した『塙保己一物語』スライド及び英語版テープを持参した。」とありました。さらに、昭和三十三年三月十日発行の第四号には、昭和三十三年児玉十大ニュースに「ドルを稼いだ塙保己一顕彰会」の記事があり、「米国カルホルニア大学より塙保己一顕彰会の趣旨に感動し、『塙保己一物語』スライド二十本送れ代金はすぐ送る(二百ドル)



『塙保己一物語』スライド撮影班集合写真 (写真提供：田島高治氏)